

SDGsがわかる

伝える！ 国連の仕事

六つの「公用語」日本に向けてわかりやすく



すべての加盟国が参加できる国連総会の緊急特別会合の様子=2023年2月、アメリカ・ニューヨーク ©朝日新聞社

世界の国々が加盟し、平和や社会の発展のために話し合い、活動しているのが、「国際連合」(国連)です。「持続可能な開発目標 (SDGs)」も、2015年に国連の総会で採択されたものです。日本には、30もの国連機関の事務所があります。その一つが国連広報センターです。所長の根本かおるさんに毎月、国連の活動や考え方を紹介してもらいます。



国際連合 (国連)

1945年に設立。現在、193の国が加盟しています。世界の平和や安全をおひやかす問題に対応する安全保障理事会、政策を決める総会など六つの主要機関、15の専門機関などで構成します。専門機関には人々の健康を考える世界保健機関 (WHO) や、世界の教育や文化などを考える国連教育科学文化機関 (UNESCO) などがあります。日本の外務省によると、国連関係機関で働く日本人は2022年末で961人。



朝日小リポーターの取材を受ける根本さん=2月、東京都渋谷区

読者のみなさん、連載を始めることになった国連広報センター所長の根本かおるです。
まず、私がどんな仕事をしているかをすばり紹介すると、「日本のみならず、国連の活動について

日本の夜の間の動き 歯みがきとともに

お伝えし、国連に関心を持ってもらうことが大切です。
日本は、重要な国連加盟国の一つです。しかし、国連が公の文書などで使う、六つの公用語に日本語は採用されていません。ちなみに公用語はアラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、

国連の存在 身近に感じてほしいから

日本の中では、政府や企業、大学など多くの人が国連の存在を知り、世界や日本の社会のために活動していることを話しています。
テレビやラジオ番組に出演したり、新聞や雑誌のために記事を書いたりすることもあります。先日、朝日小学生新聞の記者も記者からインタビュー取材を受け、とても手応えのあるやり取りになりました。
こうしたインタビューに的確に答えたり、文章を書いたりするためには調べ物も必要です。国連本部が発表したメッセージをベースに、国連の存在や考え方を身近に感じてもらえるように、書く内容を考えます。
国連が定めた国際デーなどの記念イベントでお話をしたり、出張したりすることもあります。
例えば、3月8日の「国際女性の日」



根本かおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) で勤務。国連世界食糧計画 (WFP) 広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

スペイン語です。
そこで、私たち国連広報センターの出番になります。国連が公用語で発表したメッセージから、「この情報は日本のみなさんにぜひ知ってもらわなければならない」といふものを選び、日本語に訳します。
日本語に訳して発信することで、日本のみなさんに国連の活動を伝えることができます。
国連広報センターが所属する国連事務局の本部はアメリカのニューヨークにあります。日本とは夏に13時間、冬に14時間の時差があり、昼と夜がほぼ真逆です。
ですので私の朝は、ニューヨークの国連本部の報道官が、日本時間の夜の間に現地は日中に行った記者会見をチェックするところから始まります。会見の録音を聞きつつ、歯みがきをする。これが朝の日課となっています。
ニューヨークにいる仲間たちとのオンライン会議も、時差の関係で日本の朝早くか、夜中ことが多いです。実は体力勝負の仕事なのです。

(掲載：朝日小学生新聞 2024年4月14日)